

蒲生干潟の植物②1

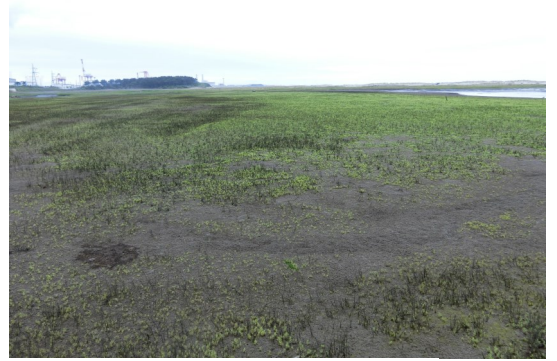
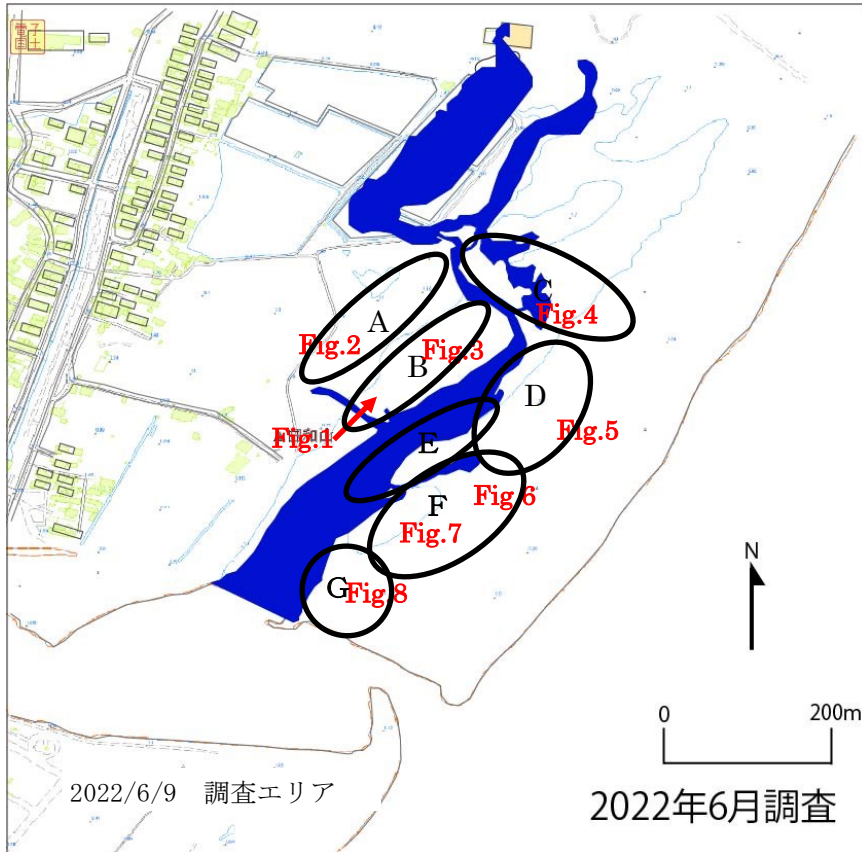


Fig.1 エリアBを南西側から撮影



Fig.2 エリアAで撮影

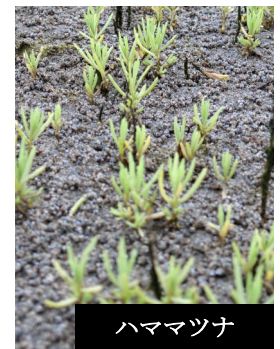


Fig.3 エリアBで撮影



Fig.4 エリアCで撮影

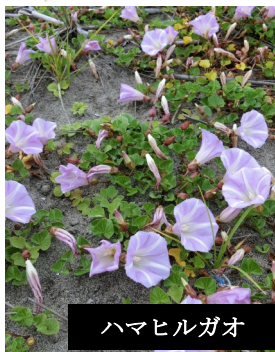


Fig.5 エリアDで撮影

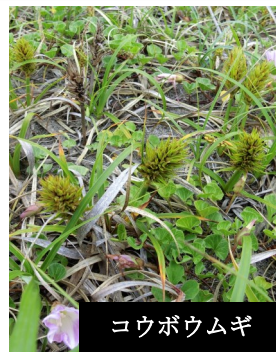


Fig.6 エリアFで撮影



Fig.7 エリアFで撮影



Fig.8 エリアGで撮影

調査日時：2022年6月9日（木）9:30～11:00，天気：くもり

定点観測では、ハマツナが成長し、ほとんど緑色に見えるようになった。また、立ち枯れた個体はほとんど見られなくなった（Fig.1）。エリアAに広がるヨシは120cmほどに成長しており、この1ヶ月間で40cmほど伸長したことがわかる（Fig.2）。エリアBのハマツナは5cmほどになり、均一に広がってきた（Fig.3）。エリアCにあるシオクグ群落では、穂がすでに茶色になっていた。他のエリアのシオクグでは、穂はまだ緑色であった。（Fig.4）。エリアC～Gの広範囲に、ハマヒルガオが咲いていた。群生しているエリアは少ないものの、広範囲でハマヒルガオの花を確認することができた（Fig.5）。同様に、コウボウムギも広範囲に生えており、穂の大きさも大きく成長しているのが確認できた（Fig.6）。エリアD、F、Gでは、ハマボウフウが散生していた。昨年は、エリアF、Gのごく一部でしか見られなかったが、今年は昨年よりも数は多く、広い範囲で確認できた。数が激減した種であったので増えつつあることは非常に喜ばしい（Fig.8）。エリアGでは、オニグルミの幼木が15本前後群生していた。近くには、イタチハギの幼木も確認しており、草本以外の植生がこれから増えていくことが期待される。

（宮崎佳彦）